

【中学生の部：会長賞②】

「じわじわと」

滋賀県・近江兄弟社中学校
1年 荒木 雄介 さん

ぼくは友達のお父さんがやっておられる散髪屋を幼稚園の時から利用しています。そこには店長の弟さんで『Aちゃん』という四十五歳くらいのダウン症のおじさんがおられます。

ぼくがその散髪屋で、順番を待っている時に、パンを作ったり車で販売に出かけたりする作業所から帰ってくる時間帯によくぶつかります。ある日、Aちゃんはぼくを見るなり、

「よっ、いらっしやい。今日も丸坊主か」としゃべってくるので、

「こんにちは。今日も丸坊主にしてもらおうかと思います。」と返事をしかけると、ぼくが最後までしゃべるのを待たずに

「ああ、今日も赤ちゃんいてへんかったあ」とパンの販売先での出来事をしゃべりだしました。店長が、ハサミを止めることなく、

「すまん。話が一方的で。」と鏡越しにぼくにしゃべってくると、ぼくが返事をするより早く、Aちゃんが「だんない。だんない。」(どうもないの意味)と笑顔で答えながら店を抜け住居のほうに入っていました。

また、別の日には、店がたいへん混んでいたもので、Aちゃんの部屋で一緒に『まんが日本昔ばなし』のDVDを観て順番待ちをしました。

「うあ、きつねが大変や。あっあっああ」とかなりのボリュームでAちゃんが言うので観始めは話に集中できずドキドキしましたが、慣れてくるとぼくも思ったことを口に出しながら、二人でげらげら笑いながら観ました。

四十歳を過ぎた男性が赤ちゃんと出会えなかったことを残念がったり、声出しながらアニメを観る。おしゃべりは一方的。そのことだけを取り出すとなんだか『普通』でないようだけど、対義語の『異常』では見下し感がある気がして何だか嫌な感じです。

そんなもやもやした気持ちをひそかに持ちながら、Aちゃんの家族である友達に

「お前ん家のAちゃんと話すの疲れるわ」
と言ったら

「そうかなあ。すべて想定内やで。」
と言われました。

同じことをAちゃんがしていても、友達は『想定内』と言い、ぼくは大きな戸惑いを感じるその違いは何でしょうか。

その違いは二つあるとぼくは考えました。

一つは、人と違う事柄をいちいち取り出すことを友達はしていません。どんな人にも得意不得意があったり強いくせがあります。そのことばかり気にして、その一部分でこういう人だと決めつけてしまうことは間違いだと今回気がつきました。

もう一つは、経験の違いだと思います。Aちゃんとぼくは月に一回出会う程度ですが、友達は自分が生まれた時からAちゃんがすでに居て、一緒に生活しています。Aちゃんが赤ちゃんが大好きなのは、友達が大きくなっていくのが愛おしくてたまらなかったからかもしれません。

障がいのある人と関わる頻度が少なかったら、違いを理解することは頭ではわかっているけど、そこで起きることが自分の想定外ばかりでしんどくなってしまいます。しかし長く付き合っていくと、違いではなく、わかり合える瞬間も多く見つけられます。すると、その人の障がいが何であろうと、一人の人として付き合っていけることがぼくもじわじわとわかってきました。Aちゃんとのつきあいだけで、障がいのある方全ての人を理解できたわけではありません。じっくりつきあいじわじわわかるこの感じこそが大切だとぼくは思います。